

# St. Luke's International University Repository

## 2017年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/13267">http://hdl.handle.net/10285/13267</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 2017年度 一般社団法人聖路加看護学会 定時評議員会報告

日 時：2017年6月9日（金）18：00～19：30  
場 所：聖路加国際大学2号館3階 交流ラウンジ

出席者：

評議員：松谷美和子（理事長）、有森直子（理事）、真田弘美（理事）、八重ゆかり（理事）、中村めぐみ（理事）、吉川久美子（理事）、奥 裕美（理事）、菱沼典子（監事）、亀井智子（第22回学術大会長）、小谷野康子、酒井禎子、野末聖香、平野かよ子、水戸優子、吉田千文

委任状：15通

指名理事：小林京子

議事録作成者：松谷美和子理事長

### 議題

1. 理事長挨拶
2. 出席者数の確認：定款 第21条-2  
上記の通り、15人の評議員の出席と15通の委任状をもって、本日の評議員会が成立することを確認した。
3. 議事録署名人の指名：定款 第24条-2  
吉田千文氏、水戸優子氏を議事録署名人として指名し、両氏に決定した。
4. 報告事項
  - 1) 2016年度事業報告：資料1  
下記の本学会の事業について、理事長、および担当理事より説明があった。
    - (1) 理事会報告  
理事会、書面理事会の開催回数について、別に開催番号を付すのか（例：第1回理事会、第1回書面理事会）という質問があった。本学会ではそのようにして開催回数を整理している旨、説明があった。
    - (2) 庶務  
2016年度の会員数および庶務の活動の報告があった。
    - (3) 会計  
会費納入率が68%であった。昨年度より下がっており、納入率を上げるためにどうしたらよいか検討している旨報告があった。
    - (4) 学会誌編集委員会  
投稿システムの改修を行ったこと、COIの報告を義務付けたこと、投稿後できるだけ速やかに掲載できるよう活動している旨、報告があった。
    - (5) ニュースレター委員会  
紙媒体のニュースレターの送付を廃止したこと、これにより予算の削減につながった旨、報告があった。馬庭理事（ニュースレター委員会担当）に代わり、小林理事より報告された。
    - (6) 学術交流委員会  
研究助成事業については、研究助成金が未振込との記載があるが、振込は完了している旨、報告があった。  
学術交流集会については、2017年度の予定について報告があった。
    - (7) 高度実践看護開発検討委員会  
一般社団法人看護系学会等社会保険連合（看保連）理事会については、当学会員である山田雅子氏が副代表として参加していることが報告された。  
本学会からの診療報酬改定に向けた提案内容については、平成32年度の改定に向けて提案できるよう準備している旨報告があった。宇佐美理事に代わり、松谷理事長

より報告された。

- 2) 2016年度決算および監査：資料2-①, ②

中村理事（会計担当）より、決算報告書について説明があった。

平成28年度の会計および業務の監査を行い、監査概要とともに、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録および収支計算書は収支状況や財産状態を正しく示していること、および、事業内容は真実であると認められたことが、菱沼監事より報告された。

前年度「受取寄付金（11,306,058円）」が多額である理由について質問があり、法人化の際、任意団体であった聖路加看護学会の財産を移行したものである旨、説明があった。

会費収入が減少していることについて、考えられる理由はなにか質問があり、会費納入率が低いことが原因であること、会員数は600人前後で横ばいの状態であることが説明された。

学会の主たる収入が会費収入であり、会費納入率を上げるための方策を取る必要があるという意見があった。会員管理を外部業者に委託している学会では、業者が厳格に会員に案内することによって、納入率を上げているという事例がある。そこで、本学会でも数社から見積もりをとるなど外部委託を検討した。しかし、現状では委託代金が高額であり、支払うことが難しいことがわかったと、説明があった。

学術集会で発表を行う際に会員になるものが多いが、翌年以降の会費が納入されないことが多い。会員であることのメリットが感じられないことが、継続的な会費納入につながっていない理由であるという意見があった。

- 3) 役員選挙について：資料3-①, ②

2018年度に向け、2017年度中に役員選挙規程に基づいて選挙を行う。現在の評議員のなかから理事・監事を選出する。スケジュールについて報告があった。

西野理英氏（聖路加国際病院）、佐居由美氏（聖路加国際大学）、玉井奈緒氏（東京大学）の3人を選挙管理委員に委嘱した旨報告された。

- 4) 2017年度事業計画および予算：資料4-①, ②

大幅な削減予算となっていること、会費納入率85%で立てている予算である旨、吉川理事（会計担当）より報告された。昨年度からの主な変更点は以下の通りである。

ニュースレターの紙媒体での発行を中止、ウェブのみでの公開として通信運搬費を減額。また編集作業の委託を止めた。ただし、会員へのサービスを考え、発行回数は年2回から4回に増加する。ニュースレター委員は、ニュースレター・広報委員として活動する。

学会誌の紙媒体での発行を年2回から年1回に変更し、学会誌編集にかかわる印刷製本費と通信運搬費を減額した。ただし、ウェブ上ではこれまで通り年2回の発行とし、会員へのサービスを維持する。

ニュースレター、学会誌にかかわる通信運搬費を減額した分、庶務会計分の通信運搬費を増額した。

研究助成の対象研究が1件であったことから、昨年度の2件より減額した。

選挙関係費用を2万円計上した。

- 5) 2017年度名誉会員について

菊地登喜子氏、小松美穂子氏を新たに名誉会員にする

ことが、報告された。両氏は本学会の理事を2期にわたって務められた。また、小松氏は学術大会の大会長も務められた。

5. 第22回学術大会進捗状況報告(別資料あり)

2017年度第22回学術大会日程:2017年9月16日(土)  
亀井大会長より、以下の報告があった。

テーマは、「超高齢社会を支える People-Centered Nursing Care」とした。このPCCの概念は、聖路加看護大学21世紀COEプログラムの取り組みの結果として開発した概念である。PCCの実践、教育の方法、さらにPCCがどのようなアウトカムをもたらすのかを研究している。「超高齢社会」という言葉を使ったが、決して老年看護学の領域を対象としているわけではなく、周囲にいるすべての人々が対象である。PCCを考えるうえでの課題を共有したいと思っている。

会場として、聖路加国際大学の大村進・美枝子記念聖路加臨床学術センター(CCA)を初めて使用する。

事前申し込みで、入金が確認できている人数が30人程度である。演題は8演題応募されている。演題の登録は、6月16日まで延長しているの、奮って応募してもらいたい。

また、ランチョンセミナーとして、ラウンドテーブルを企画したのも新しい提案である。10テーマのうち、参加者の志向に合わせたテーブルに参加してもらおう予定である。

事前参加登録を、ウェブ上でやっている。これも初めての試みであったため、手続きが十分に完了していない申込み者がいることが課題になっている。

当日参加者は120人以上を目標にしている。

6. 今後の学会活動について

今後の学会活動について検討するため、松谷理事長より以下の点が提示された。

学会の財政状況が厳しく、かなりの予算減額を行った。

これまで郵送していたニュースレターの送付を止め、学会誌の印刷回数も減らすことになり、会員が得られるメリットが縮小する面がある。

会費納入率を上げるためにも、会員にどのようなサービスを提供するかは、重要な検討課題であることから、まずはメーリングリストを作成することを、理事会において計画している。

上記を踏まえ、以下の意見交換があった。

●規模の大きい学会では、ウェブシステムを整え、活用することによって、双方向のやりとりができるようにしている。ただし、あまりに規模が違うため、本学会の方向性を考える上ではあまり役に立たないだろう。それより、本学会と規模や役割の近い千葉看護学会のことを考えると、同じような課題を抱えている。若手にいかに加入してもらうかに焦点を当て、若手(学部生・院生)向けの研究助成を行っている。

・本学会でも研究助成金を出しているが、応募者が少なく、いてもそのまま採用できる状態の計画書ではないという状況がある。

●外から見てみると聖路加の教育は大変ユニークである。新たな教育の取り組みの内容や、教育実践、看護実践に関することをもっとPRしてはどうか。出前講義などをすれば、大学院生の入学者増加にもつながる。また学術大会の際に、こうした催しをしてもよいのではないかと。

・大学院生獲得や、大学の強みのアピールが目的なら、それは同窓会の役割とも重なる面がある。

●収入を得ることが目的なら、有料の公開講座をしてはどうか。現在学術交流委員会が、学術集会の日と同じ日開催しているが、別にして参加費を取ってはどうか。ただし、学術交流会はお金集めのためか、生涯学習としての学場で

あり、それを質の高い研究や論文につなげるためのものなのか、考えたほうがよい。

・学術大会についても、出席するとたとえば認定看護師、専門看護師の更新のためのポイントになる、聖路加国際大学で行う研修にでられるなどのメリットを もっと打ち出してはどうか。

●学会誌について、概念分析の発表数は、どこの学会誌よりも多いのではないかと。修士・博士課程の学生が概念分析を行ったら、常に聖路加看護学会誌に投稿するという形にするのはどうか。継続的に会員でいなくても、学術大会や論文の発表のためだけに入会するのでも、よいのではないかと。

・学会設立当初は看護系学会が少なく、大学院生の研究・論文発表の場としての学会の役割が大きかった。現在、看護系の学会が増加し、そのニーズがなくなっている。

●学会誌について、以前聖路加で新しく開発した教育方法などをまとめたものを冊子にしていたことがある。いまでも新しいものをたくさん発表しているので、それを学会誌にも発表(報告など)してはどうか。研究論文も大切だが、教育・実践の活動報告を掲載してはどうか。

・そのためには、学会誌のあり方、査読の内容も見直す必要がある。

・実践を掲載するとしても、学会とは何なのか、研究会とは異なるということを考えなければいけないと思う。実践を大切にしているのはわかるので、アイデンティティとするのはありだと思う。

●この学会が、「聖路加」の帰属意識を高める目的をもつものなのか、もっと幅広く社会に貢献するものなのかをやはり決めなければならない。前回の将来検討委員会では、幅広く社会に貢献すること、そしてなにを探求する学会なのかかわかるような名称に変更することが提案されている。

●PCCに関することや、概念分析に関することの発表が多いとしたら、それがわかるような学会誌の名称にしなければ、同窓会学会にみえるのは仕方ない。

・名称の変更によって、「聖路加」の学会であることが明確でなくなった場合、学内にある事務局の使用料金や、学術大会実施時の会場使用料を支払うことになる。それで運営を続ける財政的基盤が、現在の本学会にはない。

・帰属意識に働きかけるのは、同窓会である。

・また、聖路加が行っていることを伝えるのは、同窓会でしたほうがよい。その際、聖路加看護学会の会員が講師をし、講師収入を得ることができるかもしれない。たとえば学会名は現状のままにして、学会誌の名称を変更してはどうか。

・それであれば学会名も変更したほうがよいのではないかと。

・聖路加も消さずに「聖路加PCC学会」はいかがかと。

・学会誌だけ名前を変えるにしても、50年くらい続く名前を考える必要がある。

全議題の審議を終了し閉会となった。

以上

【配布資料】

資料1:2016年度事業報告

資料2-①:2016年度決算報告書

資料2-②:2016年度監査報告書

資料3-①:役員選挙までのスケジュール

資料3-②:一般社団法人聖路加看護学会 役員・評議員名簿

資料4-①:2017年度事業計画

資料4-②:2017年度予算書